

特集①)2024年下半期 首都圏新築マンション市場の見通し P.1～16

- 【1】 2024年上半期の供給実績
 - 【2】 2024年下半期の首都圏供給戸数予測
 - 【3】～【9】 2024年下半期 都県別の供給動向・トピックス
・注目エリア・物件
- ◇2024年下半期の「市場背景」: 経済環境・お客様動向・不動産市場
◇TOPICS: 首都圏の定期借地権マンション動向
【まとめ】

特集②)首都圏版:お客様意識調査 (2024年7月調査) P.1～15
～価格上昇が進む中、下半期の購買行動は如何に～

- 【1】 各種定点項目の結果ダイジェスト
 - 【2】 所得環境:2024年夏のボーナスの実態について
 - 【3】 2024年下半期:お客様の購買行動予測-①・②・③
- ◇ TOPICS 『ペアローン型団信』の認知度と住宅購入への影響
【まとめ】
◆資料①・②

～次号(2024年8月)の予定～

- ◆特集レポート
・(仮)首都圏:「住みたい街調査(2024年)」
～購入の中心となる共働き世帯に選ばれるエリアを考える～

■ ■ 2024年7月:特集レポートダイジェスト ■ ■

特集①) 2024年下半期 首都圏新築マンション市場の見通し

2024年上半期の首都圏新築マンションの供給戸数は、12,300戸(前年同期比▲4%)と減少となったが、高値優先での小分け供給が中心となっている事などが要因。販売は概ね順調な動きが続いている。

そうした状況を踏まえ、下半期は約16,000戸の供給が見込まれており、年間での供給戸数は、28,000～29,000戸と前年同程度となる見通し。

本レポートでは、下半期の市場について、都県別の動向を分析。新規スタート物件比率・物件ラインナップに着目し、入れ替わりの進むマーケット(更なる価格上昇が見込まれる)・エリアについて確認しました。

◇TOPICS: 首都圏の定期借地権マンション動向

特集②) 首都圏版:お客様意識調査 (2024年7月調査)
～価格上昇が進む中、下半期の購買行動は如何に?～

2024年7月調査では、景況感が前回調査より低下。金利・マンション価格の先高感も前回調査より低下したが、過去からみると高水準を維持。住宅の買い時感は、“金利や価格が上昇する前に購入したい”等が引き続き購買行動を後押しする結果となった。

本レポートでは、下半期のお客様の動向予測として、以下項目について分析し、今後の購買行動への影響について考えました。

<分析項目>

- ・今後のモデルルーム見学の予定時期
- ・金利が上昇した場合の購入タイミング
- ・希望条件に合う物件がなかった場合の対応

◇TOPICS: ペアローン型団信の認知度・購買行動への影響